

祝 2012ロンドンパラリンピック出場 ～努力でつかんだ栄光への切符～



▲2011年ニュージーランドで開かれたIPC陸上競技世界選手権で力走する岡村さん(先頭)

メダルを目指して

『もう一つのオリンピック』
といわれるパラリンピックで、比木地区比木原出身の岡村正広さん(千葉県在住)が、陸上競技5千メートルフルマラソンに出場することが決定しました。

岡村さんは、失明の危険が伴う進行性の「網膜色素変性症」という難病と向き合いながら、努力でパラリンピック出場の切符を手に入れました。

岡村さんは、暗いところではほとんど何も見えないため、物にぶつかったりつまづいたりすることが多く、昼間でも視界が狭いため目の前の風景は長い筒の中からのぞき見るような感覚だといいます。

6年前の静岡県市町村対抗駅伝競争大会に御前崎市のアンカーとして出場したときは、最後に競技場のゲートをくぐる際、足元が見えず地面の微妙な段差につまずき転倒してしまいました。かすむ目で他チームの選手の背中を追った悔しさは今でも忘れることができません。

子どもの頃から走ることが好きで、中学1年から陸上を

始めた岡村さん。1998年の福岡国際マラソンでは自己最高の2時間20分40秒を記録しています。大学卒業後は、静岡地方裁判所などで書記官として勤務しましたが、病気の進行とともに退職。その後、浜松盲学校、筑波大学で学び、現在は千葉県立千葉盲学校の教壇に立っています。前回の北京パラリンピックでは全盲選手の伴走者を務め、昨年ニュージーランドで開催された世界選手権では視覚障害者部門で銅メダルに輝きました。

今回のパラリンピック出場を喜ぶ御前崎市民に向けて岡村さんは「中学2年生の時にロサンゼルスオリンピックの陸上三段跳びに出場した比木地区の植田恭史選手の壮行会に出席させていただいたことを覚えています。あれから長い年月が経ちましたが、まさか自分がこのような国際大会に出られるとは思いませんでした。今回はメダルを取るチャンスだと思っています。御前崎市にはお世話になった人が大勢います。市民の皆さんの声援を力に変えて頑張っていきます」と力強く抱負を語ってくれました。

おかむらまさひろ
岡村正広

42歳

比木地区比木原生まれ。浜岡東小学校、浜岡中学校、掛川西高校、愛知大学、浜松盲学校、筑波大学を卒業し、現在、千葉県立千葉盲学校教諭を務める。